

令和6年度 中部地区子ども支援net 議事録

日時：令和6年10月11日（金） 13:30 ～ 16:00

場所：奄美市役所 5階会議室

参加者： 38名（※詳細は別紙）



1. 開会あいさつ

奄美市福祉政策課

課長 長井 和揮 氏

2. 説明（奄美地区地域自立支援協議会について）



3. ミニ研修


「発達支援における保護者との連携について ～保護者に何をどう伝えるか～」

鹿児島大大学院臨床心理研究科 准教授 高橋 佳代 氏


2024.10.11
中部地区子ども支援net

発達支援における保護者との連携（2）
-保護者に何をどう伝えるのか-

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 准教授
高橋 佳代 （臨床心理士・公認心理師）



Kayo Takahashi



びあリンク奄美

【質疑・感想】

- ・研修の事例であったように、学校も周囲の子どもも困っているが、保護者が困っていないというケースがあった。学んだことを学校などとも共有し、じっくりと保護者支援を行っていきたい。
- ・学校現場での困り感を保護者に伝えることも話題になっている。今回の研修な度を参考に、学校現場でも共有していきたい。

5. グループワーク

「奄美中部での困り感のある子どもや、その家族を支える人たちの連携について」

1グループ

- にこぴあ
- あゆみ（相支援）
- たんぽぽ保育園①
- 奄美市教委
- 奄美市教委（SSW）①
- 名瀬小



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・「学校から帰ってからの過ごし方」「児童クラブでいじめにつながるような子どもの言動や実態」「持ってきた宿題の量への違和感」これらをどこに訴えれば良いのか分からない。（放デイより意見）
 - ・「やり取りを一本化するために窓口になる職員を配置する」「月に1回もしくは学期に1回など頻度を決めてやり取りをする」など学校によっては行っている。（学校としての取組）
 - ・就学相談会について、情報提供しているが、どのような流れになっているのかを知りたい
 - ・切れ目のない支援を意識して連携を行っているが、つないだ後の状況について情報が入ってこない。
- ⇒就学が決まった際に、代表者が保護者と面談し、担任や学年部の先生に引きついていることもある。
- ・早期からの関りが大切だと改めて感じた。個別支援計画作成に積極的に働きかけて参加したと言う事例もあり、学校としても今後積極的に連携をとっていく必要があると感じた。
 - ・「きらきらリレーファイル」について、内容は良いものであるが、周知が広がっておらず、利用されていない状況はもったいないと言う話が出された。

【事例等に関する意見交換】

- ・放デイ利用を勧めたが、児童クラブへ通所し、数年たってから困って相談してくるようなケースについて
- ⇒事業所から早期利用について働きかけているが、保護者の認識が深まらず利用に繋がっていない。困り感が大きくなることもあるが、根気強く働きかけを行っている。
- ⇒学校としては、事業所がこのような取り組みを行っているということを初めて知った。今後、学校で相談を受けた際には、自身の経験や知識だけでなく、しっかりと保護者の思いを聞いていくことの大切さを意識しながら対応していきたい。

2グループ

- のぞみ園①
- ライフアシスト和月
- 奄美中央病院
- 奄美市教委（SSW）②
- 大川中学校
- 大島教育委事務所



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・親の気づきに繋げるための支援として
- ⇒保育士や、保健師と連携した発達巡回相談というような取り組みができればよい。
- ・就学前に駆け込みで、言葉の教室などに来られるケースが多い。
- ⇒もっと早期につながるように、地元の病院や支援者と連携出来たらよい
- ・幼児期、学童期は特に保護者のつらい気持ちが子どもに大きく影響する。保護者支援を行うことで、子どもにも良い影響があるという意識で、色んな職種が連携して支援していけたらよい

【事例等に関する意見交換】

- ・誰が保護者に伝えたらしくりくるのか
- ⇒「市町村をまたいだ連携があればよい」「保護者が納得出来るまで、時間をかけて相談を聴くために、聴く側の心の余裕も必要」というような意見が出された。

3グループ

- チャレンジドサポート奄美①
(相談支援)
- 愛かな
- みらいはうす
- 奄美市教委 (SSW)③
- 名瀬保健所



【出された意見/共有したこと/感想】

・ 関係機関（他事業所、学校、保健師等）で話をする機会が欲しい。

【事例等に関する意見交換】

・ 母親が事業所や相談支援専門員とやり取りしているが、家庭での様子が見えにくく、虐待が疑われる家庭への支援について

⇒虐待疑いの時点で通報することで必要

⇒子どものSOSや反応をいち早く察知するために、「虐待チェックシート」等の活用について提案。

⇒母親との関係性をゆっくり築きながら、心に寄り添い、気持ちを聴いていく。

⇒行政や相談支援専門員と連携し、その家族に関わる関係機関を増やして、情報共有や支援会議を開くなどチームで支援できる体制をつくっていく。

4グループ

- のぞみ園（相支援）
- ハートリハ龍郷
- 奄美病院①
- 赤木名中
- 大島北高①
- 奄美市教委 (SSW)④



【事例等に関する意見交換】

・ 情緒クラスの不登校気味への生徒への対応について

⇒本人は話を全くせず、話しかけると背を向けてそっぽを向いてしまう状況があり学校としては困っている。

⇒母親と約束したことを守りながら、プリントを学校に取りに行くことはできている。

⇒対応として「SSWに相談し、家庭訪問などを行う」「母親に寄り添っていける体制をつくる」「奄美市で行っているふれあい教室の活用」「関係者も含めた話し合いを実施する」「ハードルを下げて本人なりに通える方法を考える」「言葉を出しにくいのであれば、筆談などの対応も行う（他児にも協力を仰ぐ）」「学校に来られた時に、少しでも頑張れるように声掛けを工夫する」などの意見が挙げられた。

5グループ

- ていだ（相支援）
- 奄美病院②
- 大島北高②
- あおぞら児童クラブ
- 奄美市教委 (SSW)④



【出された意見/共有したこと/感想】

・ 関係機関の情報共有について

⇒学校とSSW、学童と学校、学童と放デイなど関係機関が情報共有する際に、「うまく行ったこと」「失敗したこと」「それぞれの様子」など様々な視点の情報を共有することが大切。

⇒情報共有がうまく行かない時の課題として「情報共有の時間や場所がない」「教員の認識不足」「教員の異動」などが挙げられた。

⇒連携が当たり前に行えること、連携しやすい雰囲気づくり、連携する機会の創出が必要。

・ 保護者支援の重要性について、参加者それぞれが感じているとくことを共有することができた。

6グループ

- のぞみ園
- はごろもの郷
- たんぼぼ保育園②
- 大島特別支援学校
- チャレンジサポート奄美②
(相支援)
- 奄美市教委 (SSW)⑤



【出された意見/共有したこと/感想】

・ 保護者支援の難しさについて/学校によってまちまちな対応への困り感（移行支援シートの提出期限が学校によって違う。）/保護者の健康状態への配慮について。/子どもをつないだ先との情報共有/福祉サービスの終了は誰が決めるのか（本人の意向が一番大切）

・ 良い関係をとっていきたいが顔を合わせる機会が少ない。今回のような機会は大切。

【事例等に関する意見交換】

・ 保護者と学校の関係性が崩れてしまった事例

⇒SSWや他の機関が介入することでうまく行った対応を共有。

・ 「就学相談会で話をしても、保護者が特別支援について理解していない」「特別支援について理解できていないのに相談に来られた」など、保護者の理解に関する事例の共有

※市町村より

・ 今回様々な方が参加している。この機会を顔つなぎの場として今後の支援に生かしていただきたい。

・ 子どもの場合、年1回の更新やモニタリングの機会に出来れば学校や保育所などにも声掛けしてもらいたい。（教員や保育士も、事業所でどのように支援しているのか知りたいという方も多い。

・ 事業所の終了について、実態を見ながら目標設定を。

・ 2年後、3年後子供達がどのようになってほしいのかと言う視点で関わってほしい。

・ 子どもたちが自分の力で立っていけるように

・ 虐待関係など、学校でも困り感があると思うが、気軽に相談してほしい、関わる人が一人でも多く、体制を整えてほしい。



6.情報提供

○瀬戸内町より

・ 来年度、瀬戸内町で福祉まつりを計画している。（令和7年5月予定）

・ 瀬戸内町福祉からの街づくりアドバイザー茂呂史生氏の紹介

・ 「つながる支援」を意識したとき、仕組みとして学齢期で途切れてしまう。

・ 福祉側から商業にもアプローチして、街づくりに貢献したい。

・ 福祉を知らない人にも来てもらいたい。

・ 子供が企画して子供が開催するイベントなども行いたい。

